
2007年度 中間決算説明会

2007年 11月12日



三菱ガス化学株式会社

本日の出席者

取締役社長

酒井 和夫

天然ガス系化学品カンパニープレジデント

上石 邦明

機能化学品カンパニープレジデント

梅村 俊和

特殊機能材カンパニープレジデント

宮坂 一博

芳香族化学品カンパニープレジデント

塚本 耕三

財務経理センター長

杉田 克彦

本日の進行次第・配付資料

進行次第

1. 2007年度
中間決算 および 業績予想
2. 質疑応答

配付資料

- ・説明スライド コピー
- ・決算説明会参考資料
- ・2007年度 中間決算短信
- ・ニュース・クリッピング集
- ・MGC CORPORATE
DATA BOOK 2007
- ・アンケート用紙
- ・封筒

連結 2007年度中間実績

【億円】

	07年度 上期	06年度 上期	増減	増減率
売上高	2,506	2,316	190	8.2%
営業利益	226	198	28	14.1%
持分法利益	115	103	12	11.6%
経常利益	319	294	25	8.5%
税前利益	275	295	▲ 20	▲ 6.7%
中間純利益	208	221	▲ 13	▲ 5.8%

➤ 販売数量・販売価格何れも堅調で増収

➤ 当社単体の償却方法および税制の変更で、減価償却費が11億円増加するも、高純度イソフタル酸、電子材料などが好調で営業増益

➤ 持分法利益は、三菱エンジニアリングプラスチックスの配当収入減少も、海外メタノール生産会社の業績好調により増益

➤ 特別損失は、コエンザイムQ10製造設備の減損処理などで44億円を計上

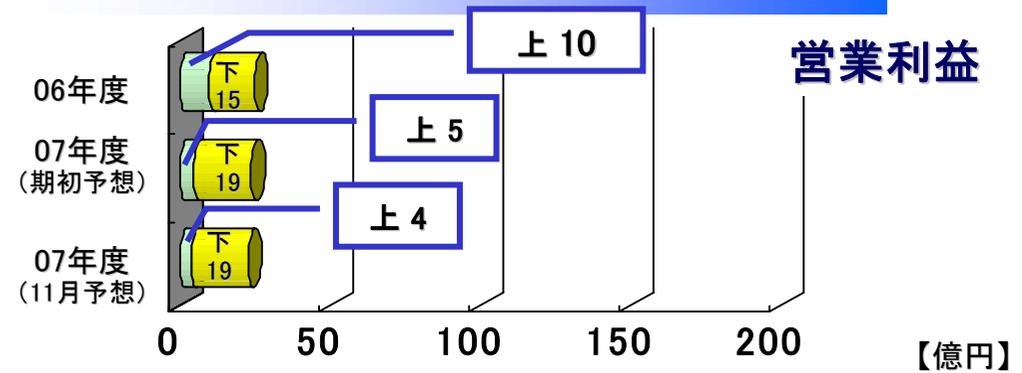
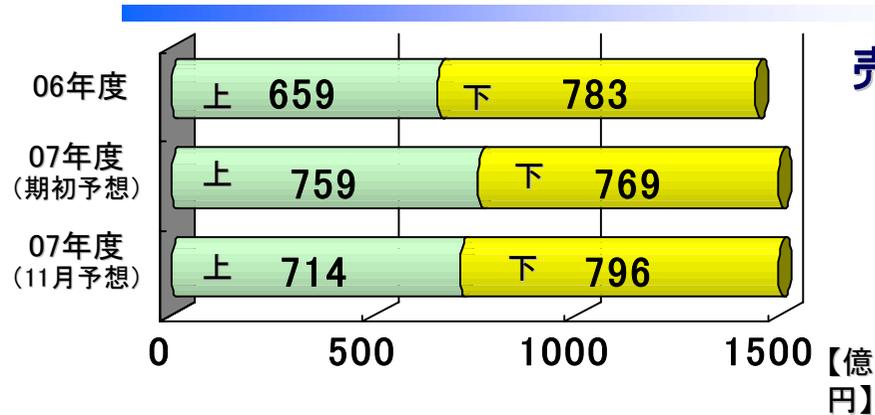
	07年度 上期末	06年度末 (`07.3.31)	増減	増減率
有利子負債	1,502	1,639	▲ 137	▲ 8.4%
総資産	6,162	6,100	62	1.0%

セグメント別 連結 2007年度中間実績

【億円】

	07年度 中間実績	06年度 中間実績	増減
売上高	2,506	2,316	190
天然ガス系化学品	714	659	55
芳香族化学品	714	649	65
機能化学品	744	685	59
特殊機能材	397	367	30
その他	5	6	▲ 1
消去または全社	▲ 68	▲ 50	▲ 18
営業利益	226	198	28
天然ガス系化学品	4	10	▲ 6
芳香族化学品	65	28	37
機能化学品	69	78	▲ 9
特殊機能材	86	79	7
その他	2	2	0
消去または全社	0	1	▲ 1

天然ガス系化学品 実績と予想



上期実績

メタノール

4月以降市況が大幅に下落するも、期中平均価格は前年上期の水準を維持し、売上は前年同期並み。海外生産会社の持分法利益は、1～3月期の価格高騰を反映して大幅増益。

メタノール・アンモニア系化学品

MMAとトリメチロールプロパンの販売数量が減少するも全体の需要は堅調。販売価格の是正効果もあり前年同期を上回る。

酵素・補酵素類

コエンザイムQ10は新規設備稼働により販売数量が増加するも、販売価格が下落し大幅減益。

天然ガス・エネルギー販売

原油価格が予想以上に高騰し増益。

下期予想

メタネックスの生産不調により市況が10月から高騰。2007年内は500ドル超で推移する見通し。通期の持分法利益は前期を上回ると想定。

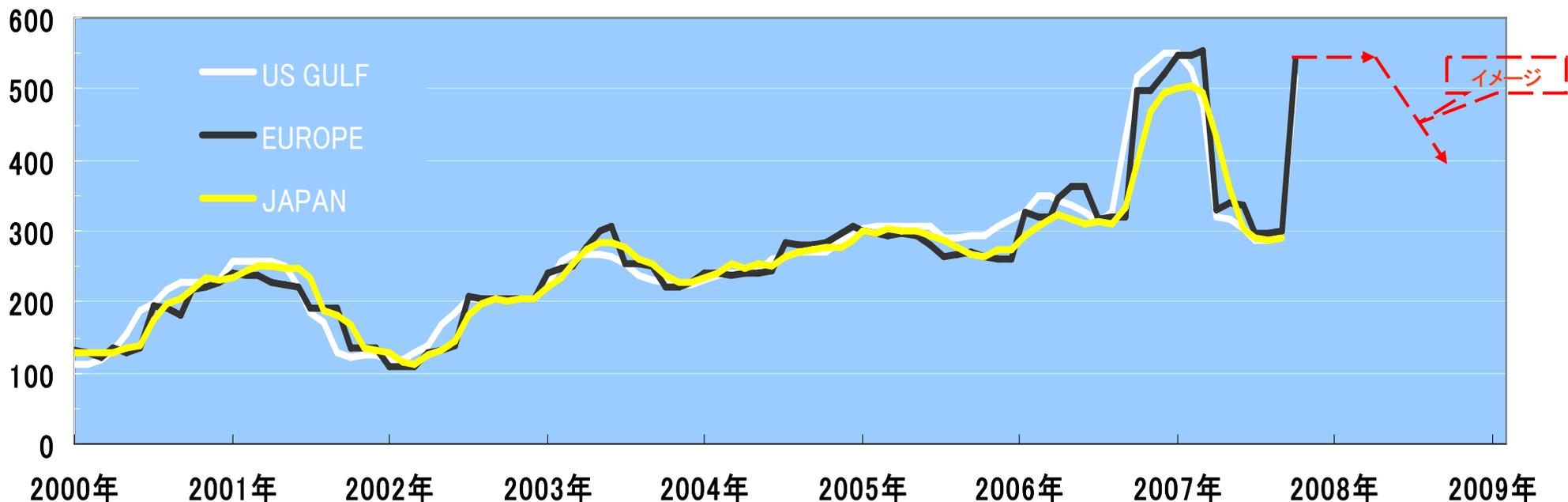
需要は全体的に好調で販売数量増加。原料メタノール価格の上昇は販売価格への転嫁により吸収。

上期と同様の厳しい状況が続くと想定

原油販売が堅調に推移

天然ガス系化学品

メタノール価格の推移



(2008年の展望)

供給動向: メタネックスのチリプラント(300万t/y)の再稼働時期が当面の焦点

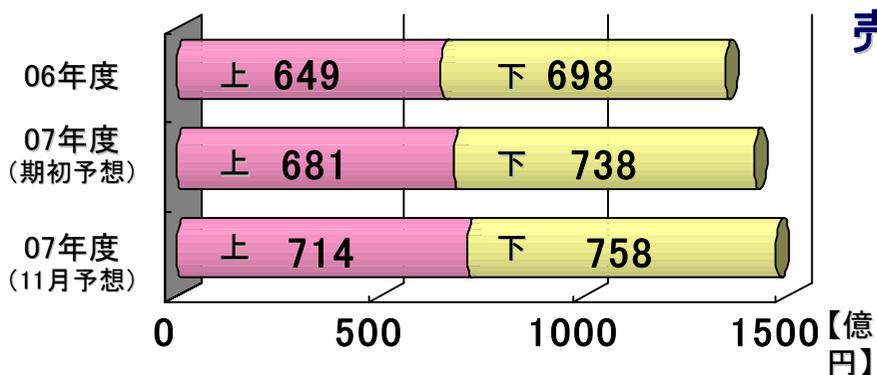
2008年2Q~3QにはサウジアラビアのAR-RAZI5(170万t/y)、マレーシアのペトロナス(170万t/y)が稼働予定

⇒ 価格動向: メタネックスプラントの再稼働あるいは新規プラント稼働までは現状の高値で推移するも、その後下落に向かう

天然ガス系化学品 設備投資・製品開発動向

件名	動向	備考
メタノール	サウジアラビア 170万t/y 増設中 (2008年2Q稼動) ベネズエラ 85万t/y 増設中 (2010年1Q稼動) ブルネイ 85万t/y 新設中 (2010年2Q稼動) 重慶 85万t/y FS中	
アミン	南京 ジメチルホルムアミド 4万t/y(新設) ジメチルアセトアミド 1万t/y(新設) 2007年11月稼動 ⇒ 中国国内でのフル生産・フル販売を狙う	菱天(南京)精細化工有限公司は12月決算のため、業績への寄与は来期以降
ネオペンチルグリコール	水島工場 1万t/y 2007年10月増強完了 ⇒ 粉体塗料用途などで中国需要が好調	能力> 3.5万t/y ⇒ 4.5万t/y
スピログリコール(SPG) ジオキサングリコール(DOG)	水島工場 1,500t/y 新設中 (2008年2月稼動) (併産プラント)	用途> SPG: 酸化防止剤など DOG: UV硬化樹脂など
燃料用 ジメチルエーテル(DME)	新潟工場 8万t/y 新設中 (2008年6月稼動)	燃料DME製造株式会社による市場開拓用プラント
特殊アミノ酸	新潟工場 新設中	用途> 医薬品中間体
ピロロキノリンキノン(PQQ)	健康食品素材として、早期事業化を推進中	

芳香族化学品 実績と予想



上期実績

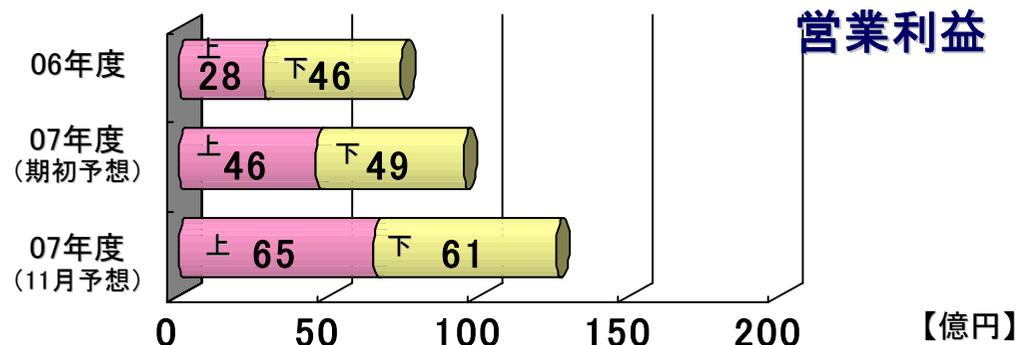
汎用芳香族化学品

パラキシレンの販売数量が減少するも、原料キシレン価格の高騰で販売価格が上昇し増収。

特殊芳香族化学品

原料価格が上昇するもメタキシレンジアミン、MXナイロンを中心に販売価格を是正し前年同期並みの採算を維持。

エイ・ジイ・インタナショナル・ケミカルは、需給タイトを反映してイソフタル酸の販売価格が上昇し、予想を上回る増収増益。



下期予想

パラキシレンは事業再編スキームが完成。10月から水島アロマ向けに新日本石油から市況ベースで仕入販売するのみとなり、損益下振れリスクが解消。

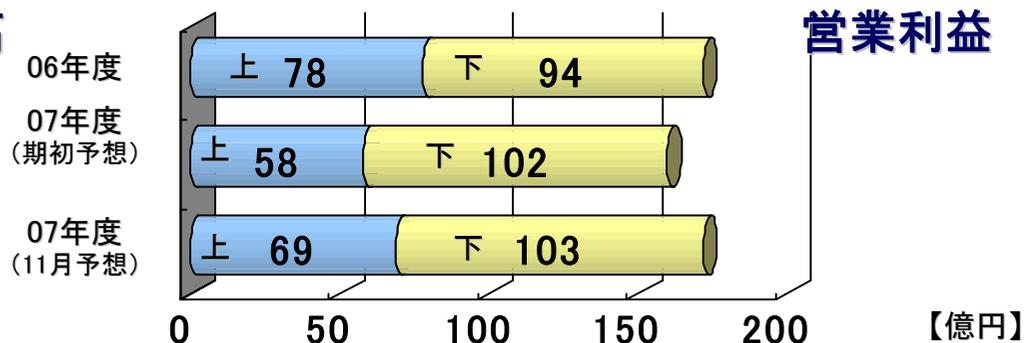
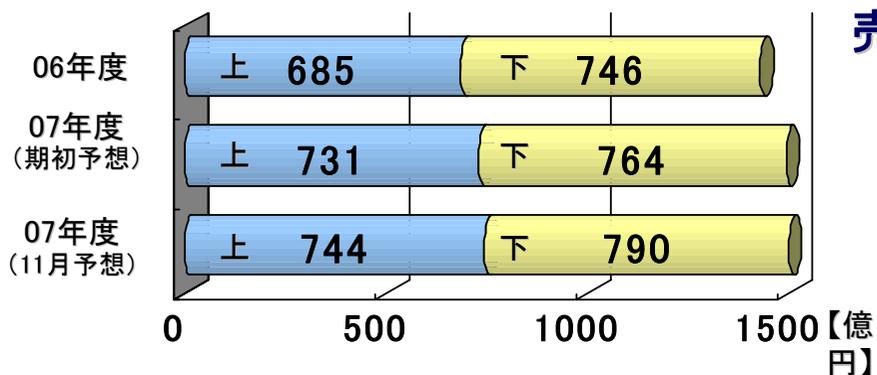
メタキシレンジアミンは、水島工場の新設備稼働により販売数量が大幅に増加するも、償却負担により上期並みの利益水準にとどまる。

エイ・ジイ・インタナショナル・ケミカルは好調を持続し、通期で大幅増収増益。

芳香族化学品 設備投資・製品開発動向

件名	動向	備考
メタキシレン	水島工場 7万t/y 増設決定 (2009年11月稼動)	
メタキシレンジアミン	水島工場 2万t/y(新設) 2008年1月稼動 ⇒ 需要好調で販売数量の大幅増加を見込む	
高純度イソフタル酸	エイ・ジイ インタナショナル ケミカル 10万t/y 増設中 (2008年4月稼動)	
高耐熱性無色透明 ポリアミドフィルム 「ネオプリム®」	平塚研究所 5,000m ² /月 2007年8月稼動 ⇒ セミコマーシャルプラントとして市場開発を 加速	用途: 透明電極基板 (電子ペーパー、光センサー、太陽電池等) 特徴: 高耐熱性、無色透明
ガスバリアー性接着剤 「マクシーブ®」	市場開発を推進中	用途: 食品包装、ほか 特徴: ガスバリアー性を備えた接着剤
新規制振材料 「ネオフェード®」	市場開発を推進中	用途: 制振材料、防音材料 特徴: 振動エネルギーを効率よく吸収する ポリエステル系材料

機能化学品 実績と予想



上期実績

工業用無機薬品

過酸化水素は需要が堅調で販売数量が増加し、販売価格を是正するも、原燃料価格の高騰で採算悪化。

電子工業用薬品

半導体・液晶業界向けとも好調で販売数量が増加するも、一部の高付加価値製品ユーザーの在庫調整の影響により、全体の収益は前年同期を下回る。

エンジニアリングプラスチック

電気・電子、自動車向けに需要は好調も、PC、POMとも原料価格の高騰により減益。PCシート・フィルムは販売数量が増加するも、販売価格の見直しで前年同期並みの利益水準にとどまる。

下期予想

過酸化水素は国内需給が更にタイト化。原燃料価格は高止まりも、販売価格是正の浸透により採算改善を見込む。

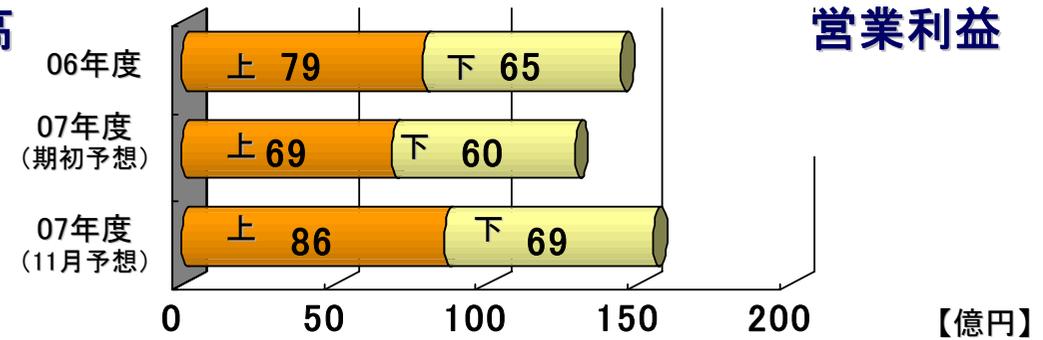
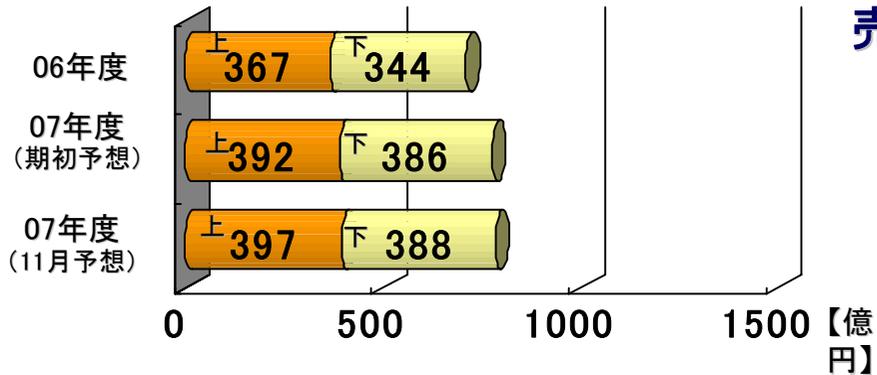
需要は引き続き好調で販売数量増加も、一部高付加価値製品の販売価格見直しにより上期並みの収益にとどまる。

需要好調は継続するも、PCはビスフェノールAの高止まり、POMはメタノールの高騰が懸念材料。PCシート・フィルムは販売数量が増加するも、新規設備の償却負担により利益水準は上期を下回る。

機能化学品 設備投資・製品開発動向

件名	動向	備考
過酸化水素 化学研磨液	中国 新社設立準備の最終段階 ⇒ アジアでのプレゼンスを強化	
超純過酸化水素	韓国 4万t/y(増設) 2008年1月稼動 台湾 5千t/y(新設) 2008年1月稼動	好調な半導体需要に対応
超純アンモニア水	シンガポール 2.5千t/y(増設) 2008年1月稼動	
ポリカーボネート	上海 新設8万t/y FS中 (2010年稼動を目標)	
ポリカーボネート シート・フィルム	MGCフィルシート 1,200t/y ハードコートシート(増設) 2007年9月稼動 ⇒ 携帯機器のLCDカバーシート向け需要が旺盛で 生産・販売ともに好調 シート・フィルム東京開発センターを設立(2007年7月) ⇒ 高機能シート・フィルムの開発を加速	

特殊機能材 実績と予想



上期実績

➤ 電子材料

プリント配線板用材料は、原材料価格が高止まりするも、半導体パッケージ向けBT材料が期初から受注好調で、メモリ向け薄葉材などが販売数量を伸ばし、想定ほど販売価格が下落しなかったことから、増収増益。LEシートは堅調。

➤ 脱酸素剤

輸出好調も、国内食品分野の競争が激化し、前年同期比減益。

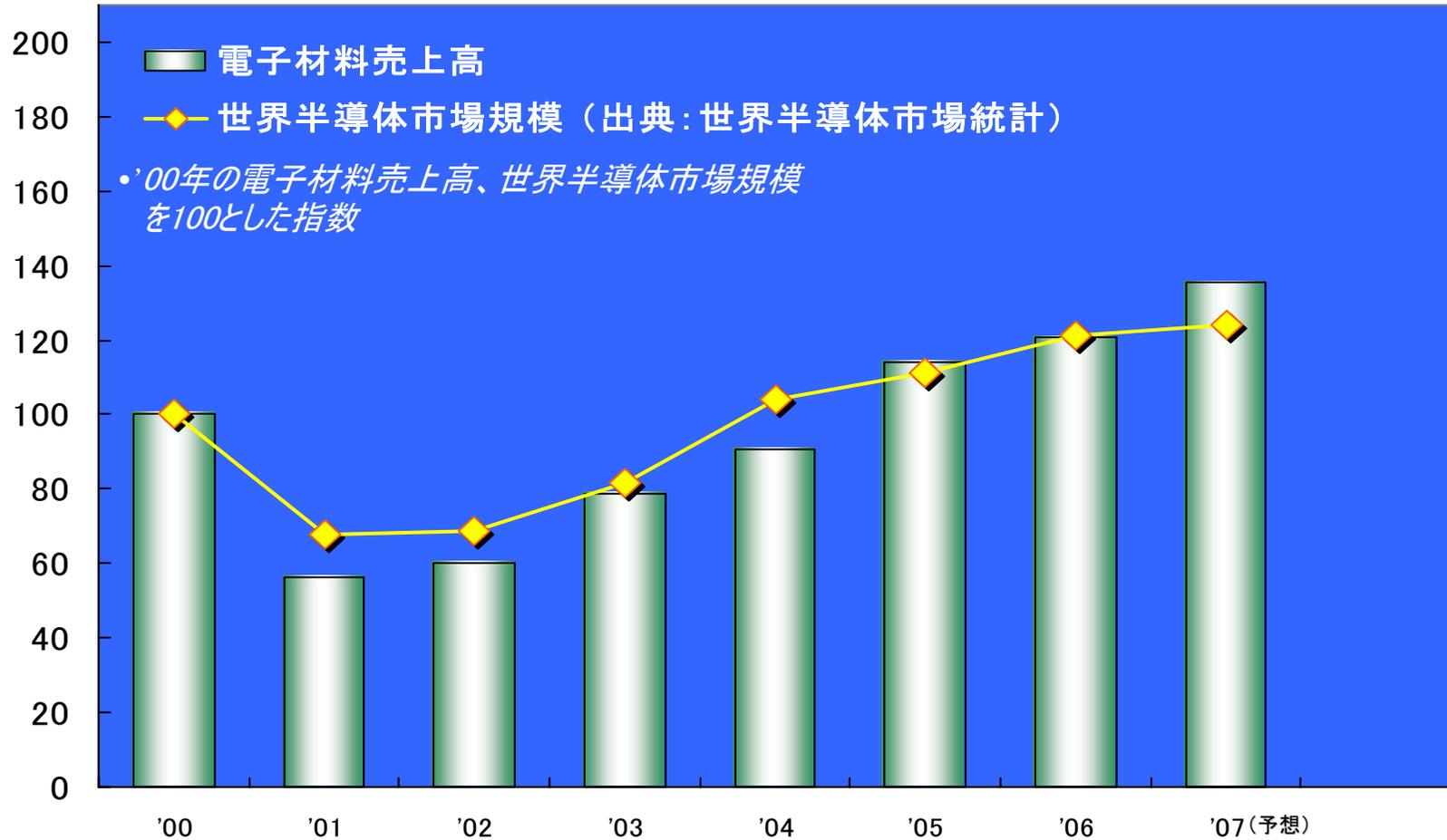
エージレスタイの増強設備は4月よりフル生産を実施。

下期予想

BT材は、季節要因で上期より販売数量が減少すると想定していたが、販売価格・数量とも受注環境は堅調で、期初予想を上回る水準で推移。高性能エポキシは下期に販売数量増加。LEシートは順調。

上期と同様の基調が続く。

特殊機能材 電子材料売上高、世界半導体市場規模の推移



連結 2007年度通期業績予想

	07年度 通期予想	06年度 通期実績	増減
売上高	5,180	4,826	354
営業利益	475	422	53
持分法利益	205	232	▲ 27
経常利益	640	617	23
税引前利益	595	526	69
当期純利益	440	400	40

➤ 原燃料価格の高止まり・高騰が懸念されるも、全般に堅調な事業環境が継続。

➤ 当社単体の償却方法および税制の変更で、減価償却費が36億円増加するも、高純度イソフタル酸、電子材料などが好調で営業増益

➤ 持分法利益は、メタノール生産会社は好調も、三菱エンジニアリングプラスチックスの配当収入減少により減益

➤ 特別損益は通期で45億円の損失を想定

➤ 配当金は中間・期末とも8.0円

お問い合わせ先

三菱ガス化学株式会社

広報IR部(佐藤、西村)

TEL 03-3283-5041

FAX 03-3287-0833

<http://www.mgc.co.jp/>

E-mail: infoir@mgc.co.jp

<見通しに関する注意事項>

当資料に記載されている内容は、いくつかの前提に基づいたものであり、将来の計画数値や施策の実現を確約したり保証したりするものではありません。

1. 連結貸借対照表

(単位:億円)

	2007年度 上期末	2006年度 期末	増減	増減率	メモ
現金及び預金	370	366	4	1.1%	
受取手形・売掛金	1,480	1,518	△ 38	△2.5%	
有価証券	82	64	18	28.1%	
棚卸資産	645	661	△ 16	△2.4%	
その他流動資産	187	150	37	24.7%	
＜流動資産計＞	2,764	2,759	5	0.2%	
有形固定資産	1,561	1,530	31	2.0%	増加理由：設備投資155、連結子会社の増加等14、減価償却△106、設備減損△32億円
無形固定資産	29	29	0	0%	
投資その他の資産	1,808	1,782	26	1.5%	
＜固定資産計＞	3,398	3,341	57	1.7%	
資産合計	6,162	6,100	62	1.0%	
支払手形・買掛金	1,006	969	37	3.8%	
有利子負債	1,502	1,639	△ 137	△8.4%	減少理由：借入・社債増減△147億円
その他負債	550	565	△ 15	△2.7%	
負債計	3,058	3,173	△ 115	△3.6%	
資本金・資本剰余金	775	775	0	0%	
利益剰余金	2,063	1,887	176	9.3%	増加理由：当期純利益208億円
自己株式	△ 42	△ 41	△ 1	2.4%	
＜株主資本計＞	2,796	2,621	175	6.7%	
その他有価証券評価差額金	188	220	△ 32	△14.5%	
繰延ヘッジ損益	2	2	0	0%	
土地再評価差額金	2	2	0	0%	
為替換算調整勘定	20	△ 9	29	△322.2%	
＜評価・換算差額等計＞	212	215	△ 3	△1.4%	自己資本比率：2006年度上期末 48.8%、2007年度上期末 46.5%
＜少数株主持分＞	96	91	5	5.5%	
純資産計	3,104	2,927	177	6.0%	
負債及び資本合計	6,162	6,100	62	1.0%	

2. 連結キャッシュフロー

(単位: 億円)

	2007年度 上期末	2006年度 上期末	増減	メモ (2007年度上期の主な内訳)
現金・現金同等物の期首残高	413	406	7	
営業活動によるCF	295	113	182	税前利益275億円、持分法利益△115億円、減価償却費110億円、 運転資金81億円、法人税等支払△66億円
投資活動によるCF	△ 94	△ 66	△ 28	設備資金 △135億円、投融資資金等41億円
財務活動によるCF	△ 188	△ 66	△ 121	借入金・社債増減 △ 147億円、配当金支払 △ 40億円
現金・現金同等物に係る換算差額	2	1	1	
現金・現金同等物の純増減額	15	△ 18	33	
合併による現金・現金同等物増加額	-	9	△ 9	
連結追加による期首現金・現金同等物増減	6	-	6	
現金・現金同等物の期末残高	433	396	37	

3. 各種指標推移(連結)

(単位:億円)

	2005年度 実績	2006年度 実績	2007年度 実績・予想	増減			増減率		
				04→05	05→06	06→07	04→05	05→06	06→07
設備投資額 (うち上期)	175 71	295 147	530 160	△ 11 60	120 76	235 13	△ 5.9% 83.1%	68.6% 107.0%	79.7% 8.8%
減価償却費 (うち上期)	188 90	注) 198 91	250 110	△ 6 △ 2	10 1	52 19	△ 3.2% △ 2.1%	5.3% 1.1%	26.3% 20.9%
研究開発費 (うち上期)	106 53	115 58	132 66	△ 1 0	9 5	17 8	△ 0.9% 0.0%	8.5% 9.4%	14.8% 13.8%
人員 (年度末時点)	4,466人	4,561人	4,690人	40	95	129	0.9%	2.1%	2.8%
一株当り 当期利益	71.0円	86.6円	95.2円	20.6円	15.6円	8.6円			
ROA (総資産経常利益率)	9.5%	10.5%	10.5%	1.7pts	1.0pts	0			
ROE (自己資本経常利益率)	22.2%	23.1%	21.2%	2.5pts	0.9pts	△ 1.9pts			
配当額 (うち上期)	10.0円 4.0円	14.0円 6.0円	16.0円 8.0円	4.0円 1.5円	4.0円 2.0円	2.0円 2.0円			

注) 2006年度の減価償却費は、特損に計上した88億円を除いた額となっております。

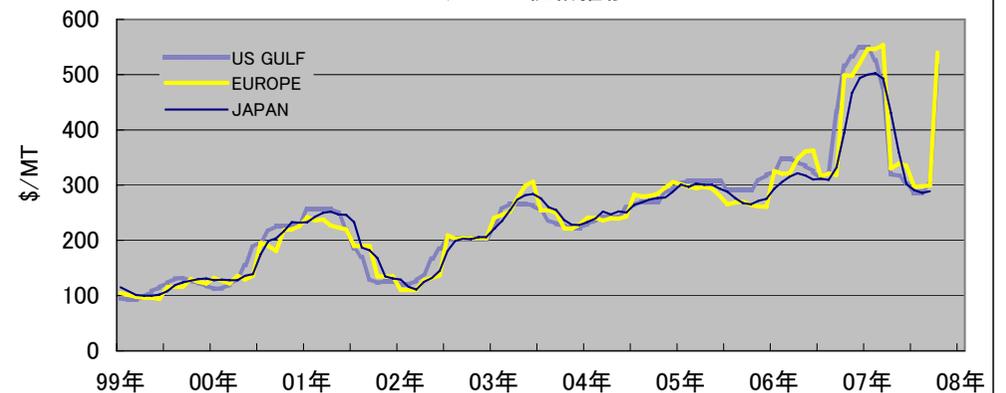
4. 経営環境

	2005年度実績		2006年度実績		2007年度		メモ
	1~6月	7~12月	1~6月	7~12月	1~6月(実)	7~12月(予)	
メタノール市況 (US\$/MT)	270~290	250~270	280~300	370~390	370~390	330~350	
	上期	下期	上期	下期	上期(実)	下期(予)	メモ
原料キシレン 公示価格(円/kg)	69	83	99	96	108	99	
ビスフェノールA (US\$/MT)	1,200 ~2,000	1,000 ~1,300	1,200 ~1,600	1,600 ~1,700	1,800 ~2,000	1,800 ~2,000	主要平均CIF価格
ポリカーボネート (US\$/MT)	3,200 ~3,300	3,000 ~3,300	2,900 ~3,100	2,400 ~2,750	2,600 ~2,850	2,600 ~2,850	日本からの輸出通関統計数値(FOB価格ベース)
為替 (円/US\$)	110	117	115	119	119	115	

電子材料売上高および世界半導体市場規模の推移



メタノール価格推移



2007年度 中間決算説明会参考資料(4/4)

2007年11月12日
三菱ガス化学株式会社

(単位:億円)

5. 単体業績実績・予想

	2007年度		2006年度		増減			メモ
	上期実績	通期予想	上期実績	通期実績	上期比較	(うち価格要因) (うち数量要因)	通期比較	
売上高	1,758	3,770	1,698	3,552	60	106 ▲ 47	218	
天然ガス系化学品	473	1,099	459	1,022	14	28 ▲ 14	76	
芳香族化学品	499	1,061	464	973	34	52 ▲ 17	89	
機能化学品	481	1,032	497	1,023	▲ 17	20 ▲ 37	9	
特殊機能材	306	588	278	534	28	7 21	54	
その他・消去	0	▲ 11	0	0	0	- 0	▲ 11	
営業利益	96	220	97	197		▲ 2	23	
営業外損益	105	170	35	118		70	52	
経常利益	201	390	132	315		69	75	
特別損益	▲ 33	▲ 30	1	▲ 67		▲ 34	37	
税引前当期純利益	168	360	134	248		34	112	
法人税、住民税及び事業税 法人税等調整額	▲ 15	▲ 50	▲ 33	▲ 45		18	▲ 5	
当期純利益	153	310	101	293		52	17	